

お日さん、雨さん

金子みすゞ

ほこりのついた

しば草を

雨さん

あらってくれました。

あらってぬれた

しば草を

お日さんほして

くれました。

こうしてわたしが

ねごろんで

空をみるのに

よいように。

いいお天気をいただいた日は、

「神さま、今日は素晴らしいお天気をくださってありがとうございます。たくさんお外であそべますように」

雨が降ると、「今日は恵みの雨をいただいて、木々も喜んでいます。ありがとうございます。お部屋の中ではお友だちともっともっと仲良くなれますように…」等とお祈りします。

毎日、礼拝で神さまにお祈りをしていたある子どもが、小学校に行ってから、雨が降っていたので「恵みの雨だ」と言ったそうです。すると、担任の先生から、「雨を恵みってなんて言うなんてすばらしい！」と言われた…とその子のお母さんが報告してくださり、そして「そういうふうにするのって野毛山の子だけですよね…」と話してくれたことがあります。

お天気は、晴れても雨が降っても自然なこと、人はそれを受け取るしかありません。

恵みとして喜んで前向きに受け取るか、いやいや、しぶしぶ受け取るかでその日の過ごし方が変わってきます。

気分次第で態度が変わったり、価値を自分の物差しで測って、自分にとって都合が悪いことは聞かないようにしたり、不平不満を言ったり…と同じだと言えます。

「お日さん、雨さん」の詩の中で、みすゞさんは、自分が寝転んで空を見ることができるのは、お日さま、雨さんのおかげだと言っています。何と優しい詩でしょう。

いろいろなことがある毎日ですが、「〇〇のせいで」ではなく「〇〇のおかげさまで」と言える日々にしたいものです。

